

# オーバーツーリズムの現状と今後の観光政策

## 要旨本文

2003年に観光立国宣言が確立され以来、日本の観光産業は急速に発展し、2019年の訪日外国人観光客数は3000万人を突破した。また、2019年における観光・旅行に伴う消費額は約30兆円と、観光産業による経済効果が期待されている。しかし、こうした観光客数の増加と経済効果に期待する一方で、京都や鎌倉といった主要観光地では、訪日観光客があふれかえり、街の混雑や交通渋滞、ゴミ問題等が発生し、観光が地域の生活に負の影響を及ぼす「オーバーツーリズム」という問題が発生している。本論文では、今後のオーバーツーリズムへの対応と持続可能な観光を推進していくための必要な取り組みを提示することを目的とし、その手法として、国内の観光地で発生しているオーバーツーリズムの現状やその対策を取り上げ、今後求められる観光政策のあり方を考察していく。